

# 株式会社アバールデータ

2011年3月期第3四半期 決算説明会  
(2011年2月17日 厚木事業所1号館)



## 会社概要と業績報告

(第52期 2010年4月－2010年12月)

## 中期経営計画概要

(第52期 2010年度－第54期 2012年度)

### ご報告内容

1. 会社概要
2. 第52期第3四半期 業績報告  
第52期通期業績予想
3. 2010年中期経営計画概要





# 株式会社アバールデータ 会社概要 2010年度版



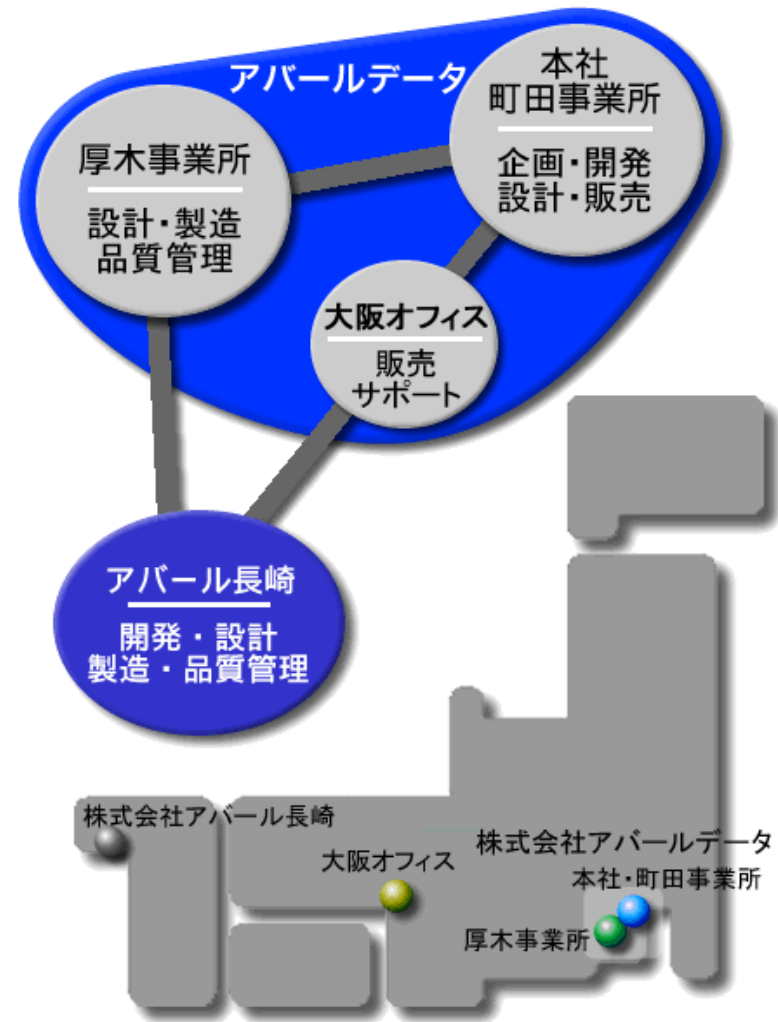
私たちは、お客様に「価値(value)」を提供し「信頼」を獲得します。





## 株式会社アバールデータ

本社・町田事業所 東京都町田市旭町 1-25-10  
 厚木事業所 神奈川県厚木市金田 1041  
 代表取締役 嶋村 清  
 会社設立 1959年8月  
 資本金 23億5,409万円  
 従業員 175名  
 JASDAQ店頭公開 1991年  
 ISO9001認証取得 1995年  
 ISO14001認証取得 2001年



## 株式会社アバール長崎

本社 長崎県諫早市津久葉町6-42  
 情報機器営業部 神奈川県厚木市中町4-10-2  
 代表取締役 川浪 義光  
 会社設立 1987年11月  
 資本金 1億3,400万円  
 従業員 125名  
 ISO9001認証取得 1996年  
 ISO14001認証取得 2006年



## 沿革

- 1959 ● 応用電子研究所を母体に東洋通信工業株式会社(東京・渋谷区)を設立
- 1979 ○ 初の自社製品ポータブルタイプのPROMプログラマ「Pecker」を開発・発表
- 1985 ○ 68000プロセッサを搭載したVME busボードコンピュータを開発
- 1987 ● 自社製品の開発・製造拠点として「株式会社アバール長崎」を設立
- 1988 ○ 画像処理製品の開発プロジェクトを発足
- 1989 ● 社名を「株式会社アバールデータ」に変更
- 1991 ● 店頭銘柄として新規登録(現JASDAQ)
- 1995 ● 品質マネジメントシステムISO9001の認証を取得(株アバール長崎:1996年取得)
- 1996 ○ (株)アバール長崎:CTI製品を初めて国産化
- 2001 ● 環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得(株アバール長崎:2006年取得)
- 2003 ● (株)アクセルと画像描画・伸張LSI応用システム製品事業の協業で合意
- 2007 ○ PCI ExpressブリッジLSIを開発、自社製品への組込みと単体のサンプル出荷開始
- 2007 ● 東京エレクトロデバイス(株)とLSI・ボード販売等に関して業務提携
- 2010 ● PCI Expressブリッジ用高性能FPGA IPを開発 次世代自社及び受託製品への組込み開始
- 2010 ○ 日本インダストリアルイメージング協会にてCoaXPress分科会を発足 規格標準化に取り組む

# 関連事業分野と利用製品

世の中の商品とつながっているアバルデータの製品


アバルグループ

アバルデータ    アバル長崎




アバルグループの製品

半導体製造装置    検査装置計測装置    FA用制御機器    CTI関連機器    電力省エネ機器    医療機器



アバルグループの製品が使用される組み込み機器



一般的な組み込み製品（最終製品）

# 「組み込み製品」とは？ 1

アバールデータの主要なビジネスである組み込み製品の「組み込み」とは何でしょうか？

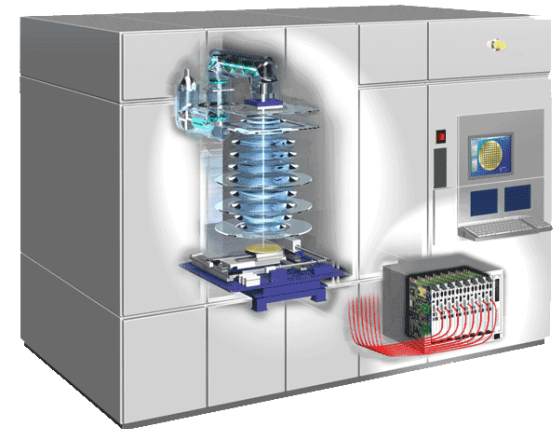




## 「組み込み製品」とは？ 2

産業用装置は工場などのさまざまな環境で24時間365日止まることなく使われます。

一般家庭で使われるパソコンや電気製品と異なり、高い信頼性や長期間にわたる供給が要求されます。



### +αの機能

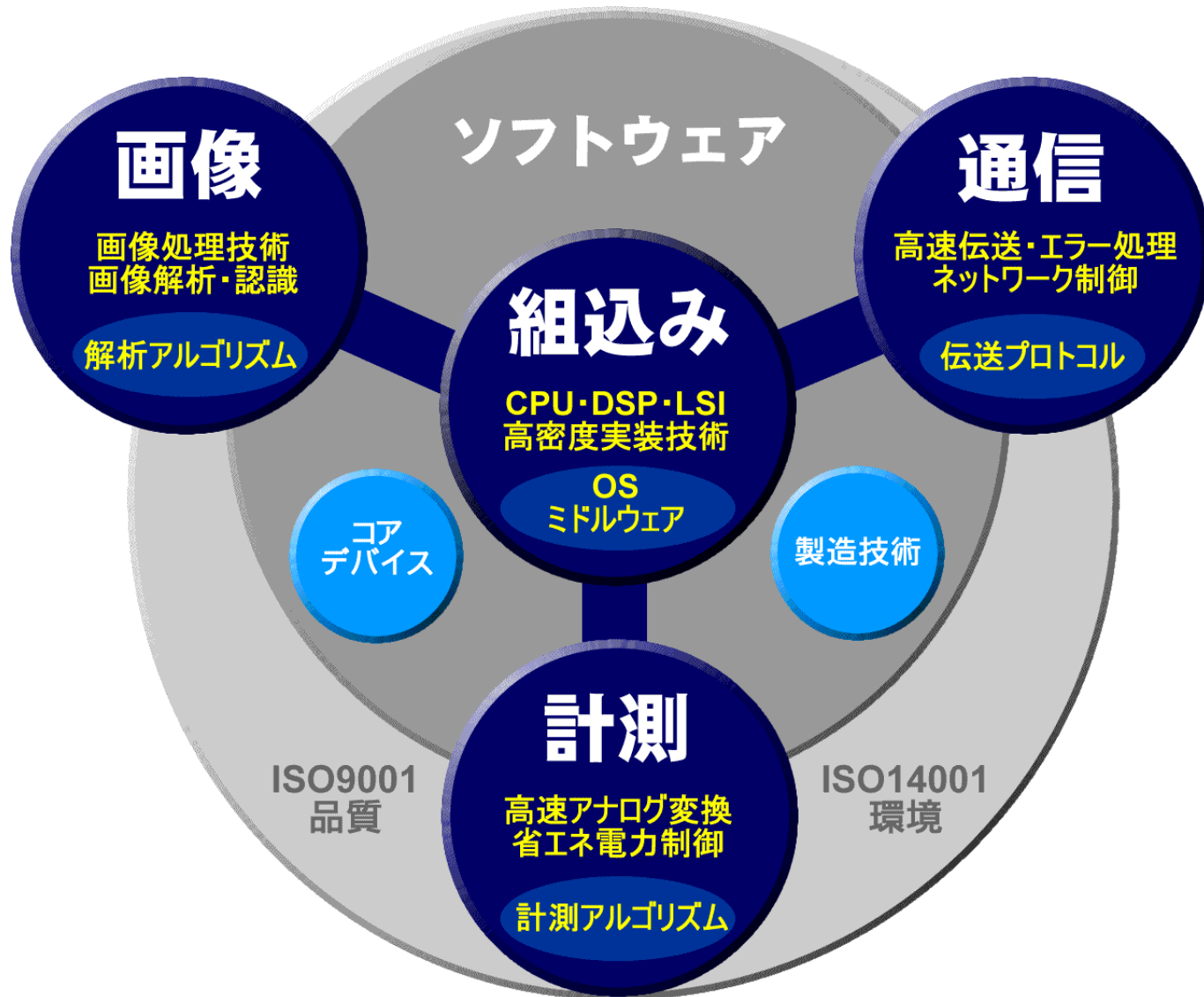
高信頼性 (止まらない)

高速性 (大容量のデータ)

長期供給 (長い製品寿命)

【応用分野】停止が許されない、リアルタイム制御が必要

- ・ 半導体・自動車・家電の生産設備、生産ラインの制御
- ・ 電話交換機、船舶・航空機の機器、原子炉の制御





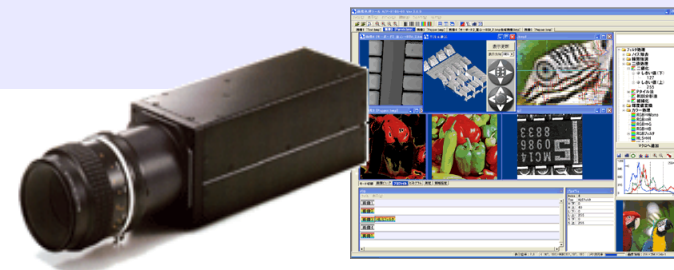
## ◆ 組込製品：産業用機器の 頭脳

- 半導体製造装置・産業用ロボット等の制御
- Intel系、PowerPC系の最新プロセッサに対応
- OS、ミドルウェア、ドライバなどを提供



## ◆ 画像処理製品：産業用機器の 眼

- 産業用機器で欠陥検査・形状認識などに応用
- 画像取込から画像処理までフルラインナップ
- 画像処理ソフト、ライブラリも提供



## ◆ 通信製品：産業用機器の 神経

- 大量のデータを超高速で確実に伝送
- 独自開発のLSIを搭載、機能とコストで差別化
- 業界最高速（長距離伝送）



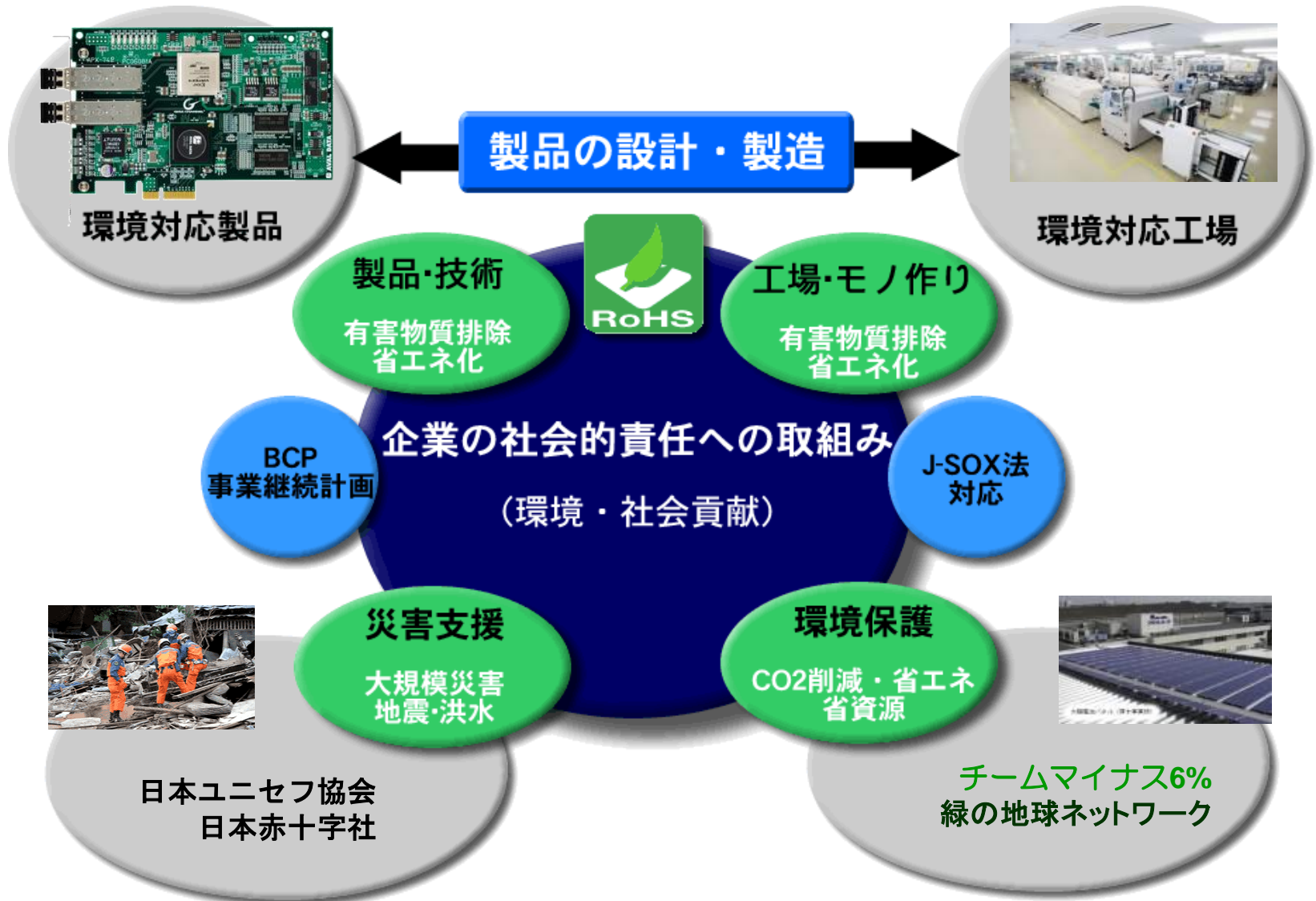
## ◆ 通信製品：CTI・リモート監視

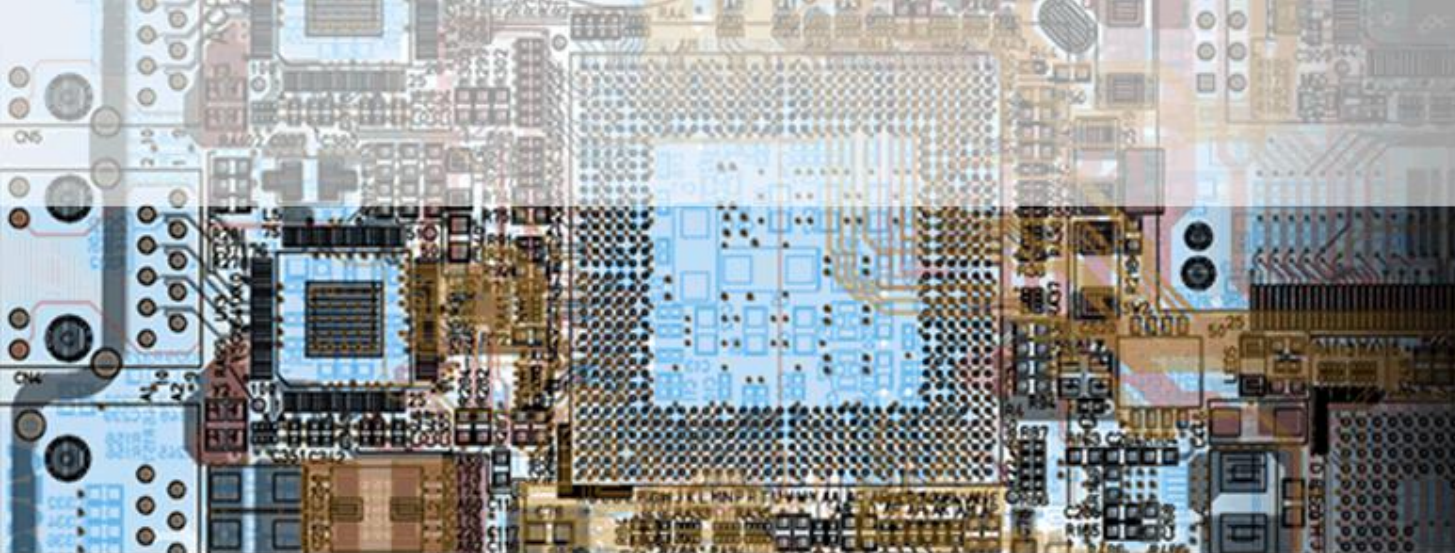
- アナログ通信からIP伝送まで国内随一の技術
- 音声応答、FAXサーバ、コールセンタ
- サーバや電力機器の遠隔監視・管理システム





# CSR経営（企業の社会的責任への対応）





## 第52期(2010年度)第3四半期の業績報告

[期間:2010年4月1日-2010年12月31日]

## 第52期(2010年度)通期の業績予想

[期間:2010年4月1日-2011年3月31日]





# 2011年3月期第3四半期・業績および通期計画

単位:百万円(百万円未満四捨五入)

品目 / 項目		2010年4-12月期(第3四半期)口実績)				2011年3月期(通期)口計画)			
		連結		個別		連結		個別	
セグメント	品目	売上	前年同期増減率	売上	前年同期増減率	売上	前年同期増減率	売上	前年同期増減率
自社製品	組込みモジュール	543	129.6%	544	135.3%	730	98.0%	725	103.7%
	画像処理モジュール	455	94.1%	455	94.1%	630	78.7%	630	78.4%
	計測通信機器	476	10.2%	172	106.0%	645	6.8%	270	96.0%
	自社製品関連商品	136	109.7%	124	205.8%	135	25.1%	120	55.1%
	小計	1,610	66.4%	1,294	119.6%	2,140	49.3%	1,745	88.8%
	セグメント利益	287	-	235	-	-	-	-	-
受託製品	半導体製造装置関連	2,609	143.4%	2,130	141.6%	3,450	96.9%	2,750	88.9%
	産業用制御機器	654	22.3%	150	62.7%	885	23.2%	190	56.9%
	計測機器	467	22.0%	172	42.8%	625	10.2%	215	29.2%
	小計	3,730	87.5%	2,452	124.0%	4,960	63.3%	3,155	81.0%
	セグメント利益	554	-	392	-	-	-	-	-
売上合計		5,339	80.6%	3,747	122.5%	7,100	58.8%	4,900	83.7%
営業利益		493	(△305)	400	(△284)	585	(△184)	485	(△206)
経常利益		565	(△186)	477	(△168)	650	(△40)	560	(△88)
当期純利益		392	(△43)	353	(△30)	440	(46)	410	(31)

(注)「前年同期増減率」は、第51期比。カッコ内は、前年の実績値。セグメント利益は実績のみ記載。連結各セグメント利益合計841百万円と営業利益493百万円との差額348百万円はセグメントに属さない全社費用(個別も同様)。

◆ 組み込みモジュール分野(自社製品)

- 半導体製造装置・産業用機器の急回復により大幅に売上増加  
→ 売上高543百万円(前年同四半期比129.6%増)



◆ 画像処理モジュール分野(自社製品)

- 主力の液晶検査装置向けの設備投資の回復により大幅に売上増加
  - 産業用検査機器市場全体の需要が回復、新分野の新製品販売が貢献
 → 売上高455百万円(前年同四半期比94.1%増)

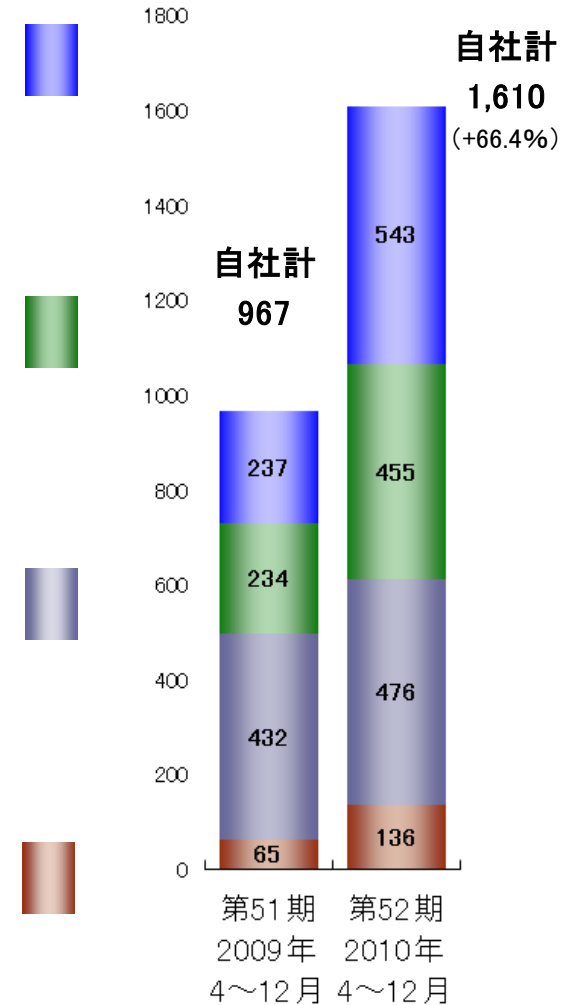
◆ 計測通信機器分野(自社製品)

- 通信市場は低迷、産業機器全般の急回復により売上は増加
  - 特定顧客向けCTI製品の大口継続需要が一段落
 → 売上高476百万円(前年同四半期比10.2%増)



◆ 商品(自社製品関連)

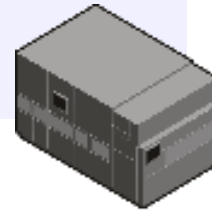
- 自社製品全般が回復に転じたことにより大幅に売上増加  
→ 売上高136百万円(前年同四半期比109.7%増)



自社製品・品目別売上  
単位:百万円

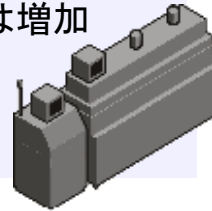
◆ 半導体製造装置関連分野(受託製品)

- 大手半導体メーカーの設備投資再開により大幅に売上増加
  - 半導体市況の回復、半導体メーカーの設備稼働率の向上による
  - 売上高2,609百万円(前年同四半期比143.4%増)



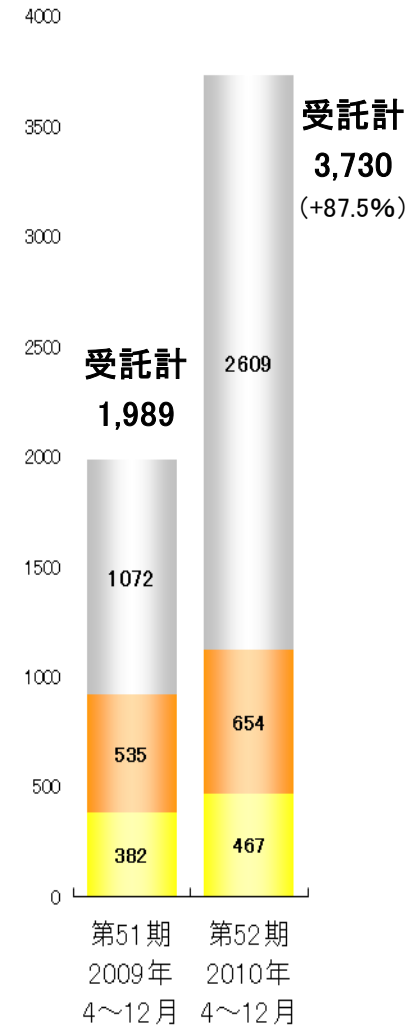
◆ 産業用制御機器分野(受託製品)

- 産業用機器、分析機器等の本格的な回復には至らず売上は増加
  - 昨年はじめよりFA全般で受注改善の兆しが見られ今後に期待
  - 売上高654百万円(前年同四半期比22.3%増)



◆ 計測機器分野(受託製品)

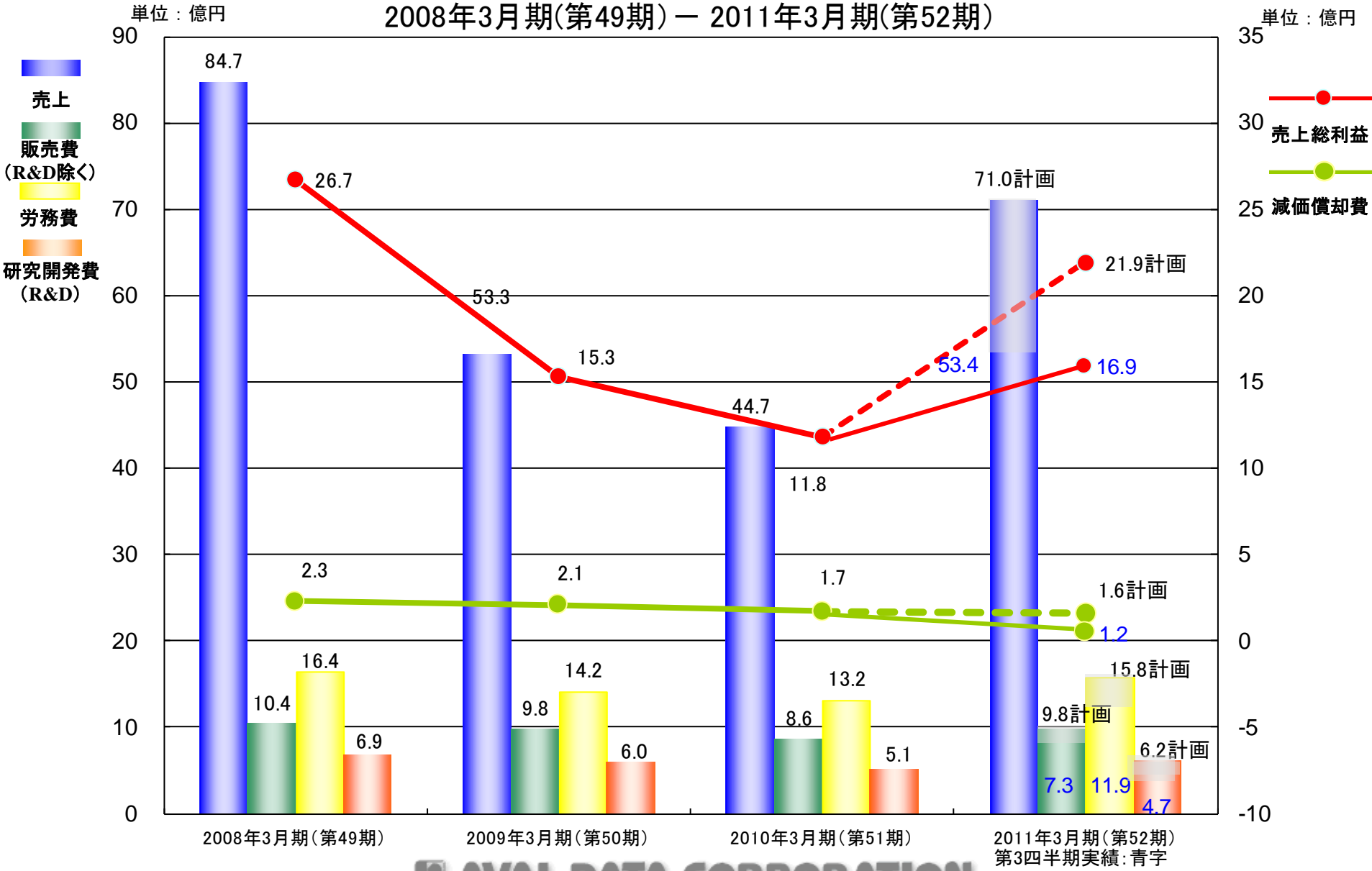
- 主力の電力関連及び工業用計測機器の回復により売上増加
  - 売上高467百万円(前年同四半期比22.0%増)



受託製品 品目別売上  
単位:百万円)



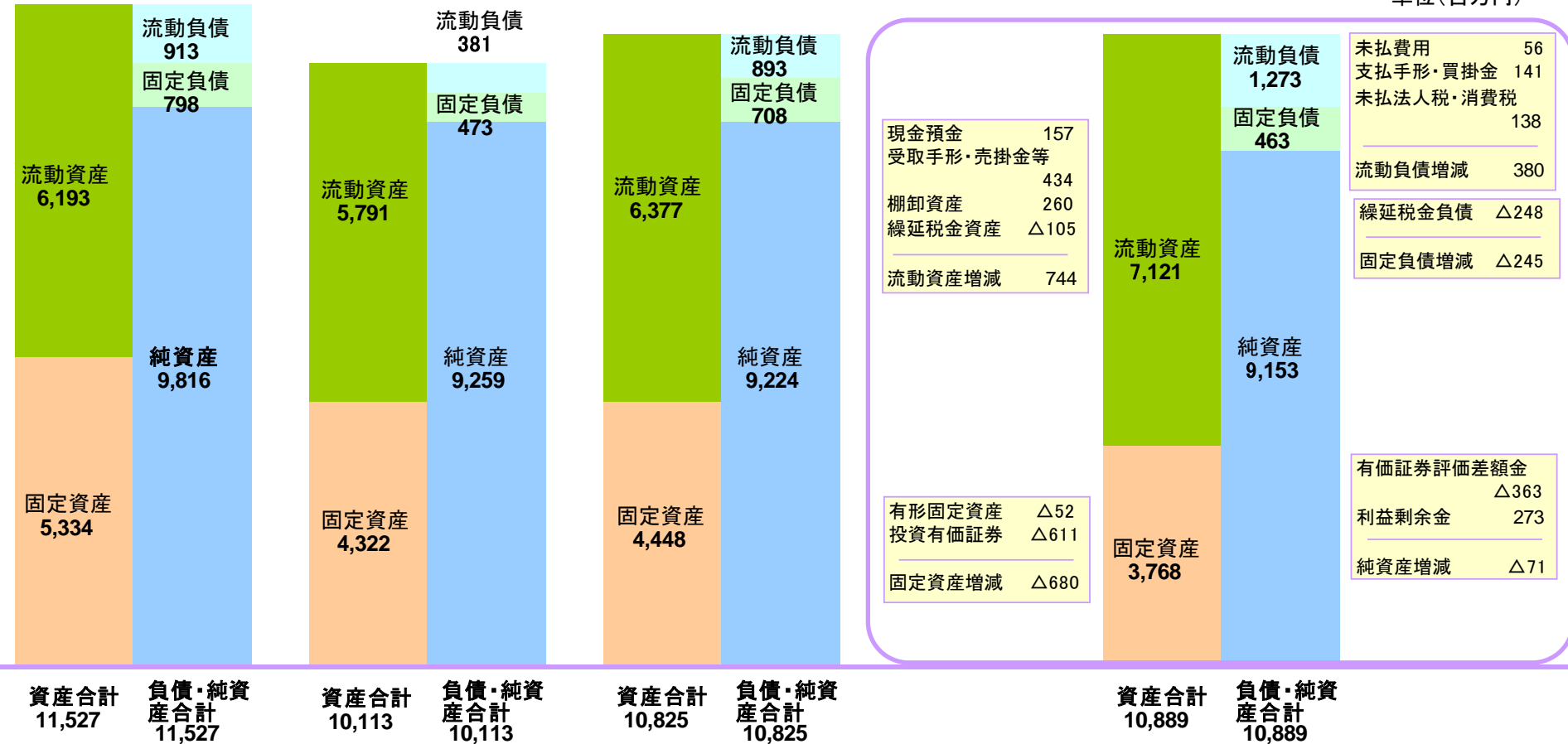
# 2011年3月期第3四半期・業績（経営成績）



# 2011年3月期第3四半期・業績（財政状態）

2008年3月期(第48期) — 2011年3月期(第52期第3四半期)

単位(百万円)



2008年3月期（49期）

2009年3月期（50期）

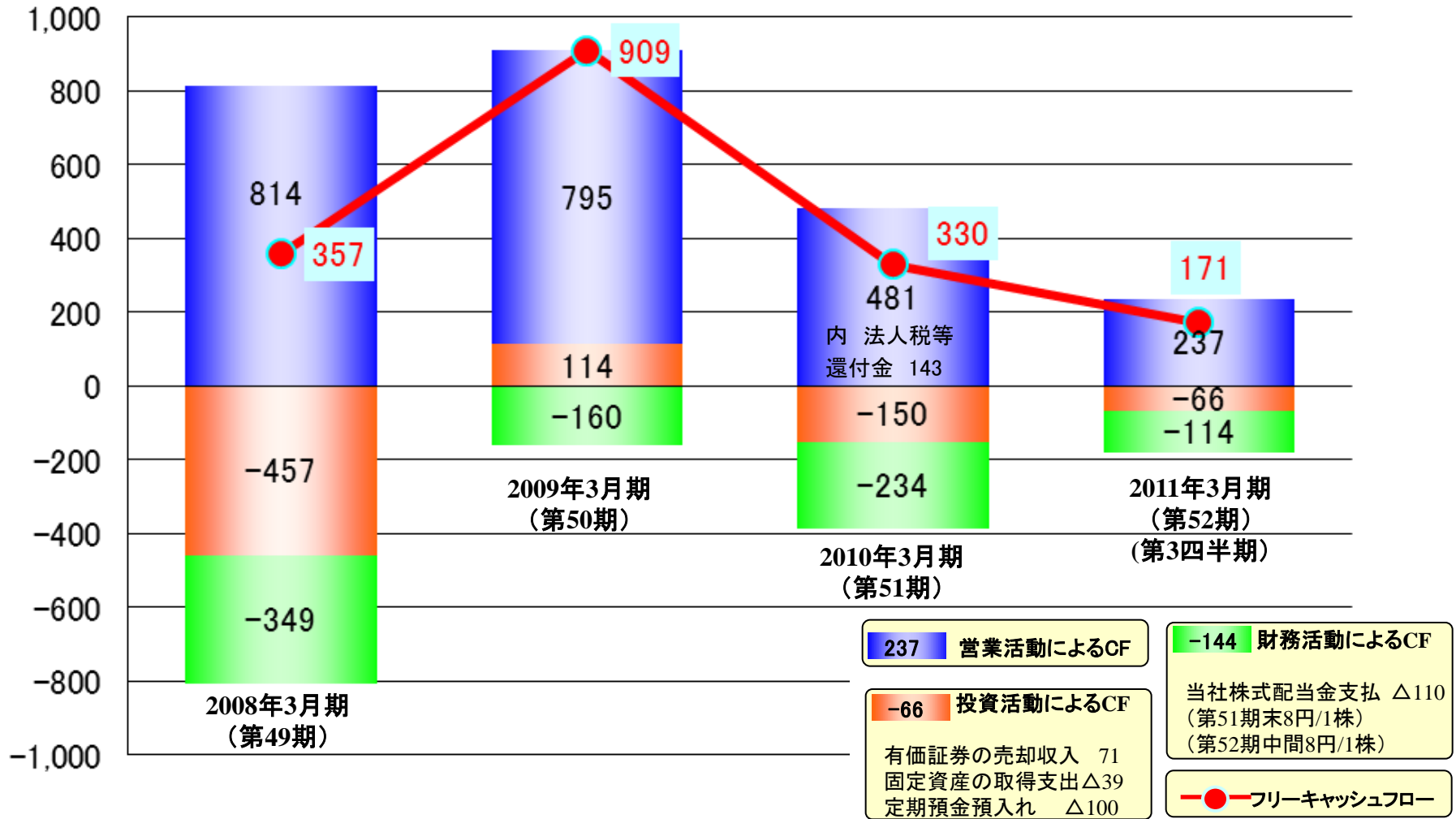
2010年3月期（51期）

2011年3月期（52期第3四半期）

# 2011年3月期第3四半期・業績(キャッシュフロー)

2008年3月期(第49期) - 2011年3月期(第52期) 第3四半期

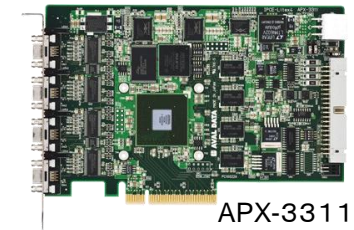
単位:百万円





◆ 画像処理分野：新カメラインターフェースの製品が完成

- ・ 標準製品の更なる高速・低コスト版の完成・出荷 APX-3312A, APX-3313A
- ・ 高速・低コストの次世代カメラインターフェース搭載製品完成 APX-3311



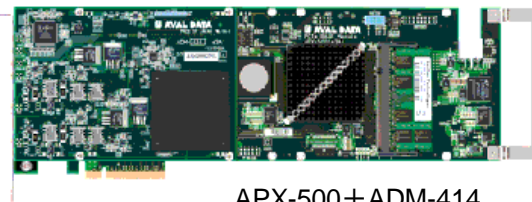
◆ 通信分野：産業用・高速通信モジュール「Gigaチャネル」

- ・ PCI Express Gen2対応製品が完成・出荷 APX-741A-1, APX-742A-1
- ・ ローコスト・ハイパフォーマンス次世代製品開発中 8Gx2ch



◆ アナログ処理分野：ミドルレンジ製品に加え、ハイエンドローエンド製品完成

- ・ 高速アナログ→デジタル変換ボードのシリーズ化 250/400MHz, 14bit, 500MHz 13bit
- ・ 高速デジタル→アナログ変換ボード第一弾500MHz/16bit製品開発中



高速デジタル→アナログ  
変換ボード  
開発中



ADMシリーズ  
ADM-512  
ADM-213



◆ 高速化への対応：高性能高品質な製品開発の早期実現するハイエンドFPGA IPを開発

- ・ PCI Expressブリッジ用FPGA IPを開発し、次世代自社製品へ投入開始

さまざまなFPGA IPを  
独自に開発・蓄積



自社製品に  
活用することで  
開発期間を短縮

◆ その他の開発製品

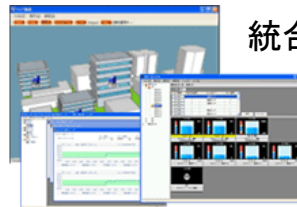
- ・ スマートグリッドにおけるデジタル制御電源をシリーズ化
- ・ CTI製品のWindows7・PCI Express対応、リモート監視製品の高機能化を実施
- ・ Intel ATOM採用省電力MPUボードACP-127、APC-134を開発



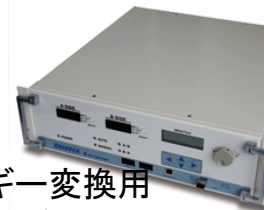
MPUボード  
ACP-127



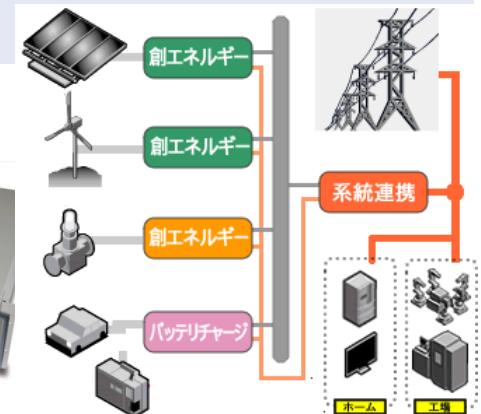
ロガーボード  
ISDN1500版



統合監視ソフト



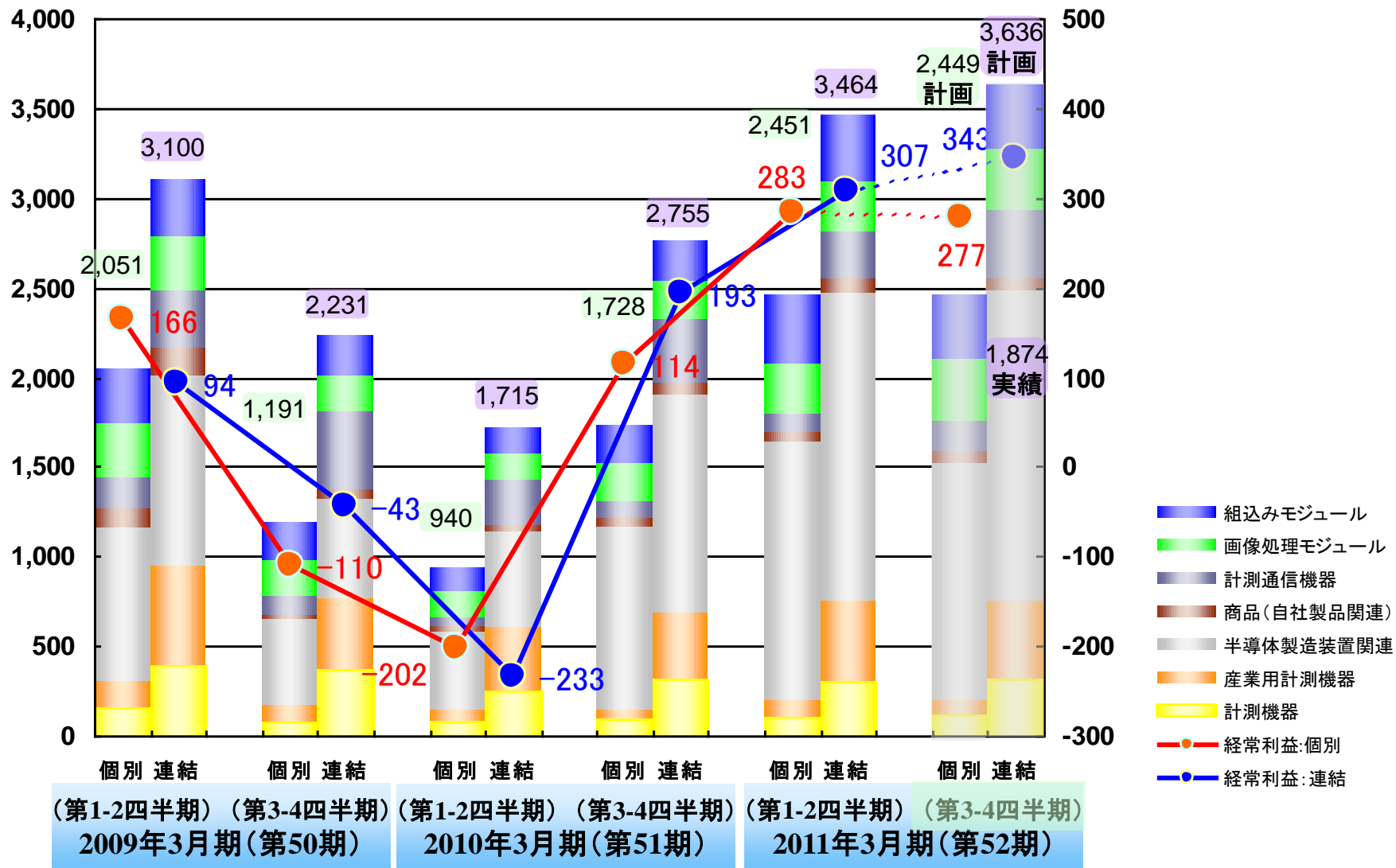
エネルギー変換用  
双方向コンバータ電源



# 半期業績の推移－実績と計画(売上高・経常利益)

単位:百万円 売上 2009年3月期(第50期)－2011年3月期(第52期)

単位:百万円 経常利益

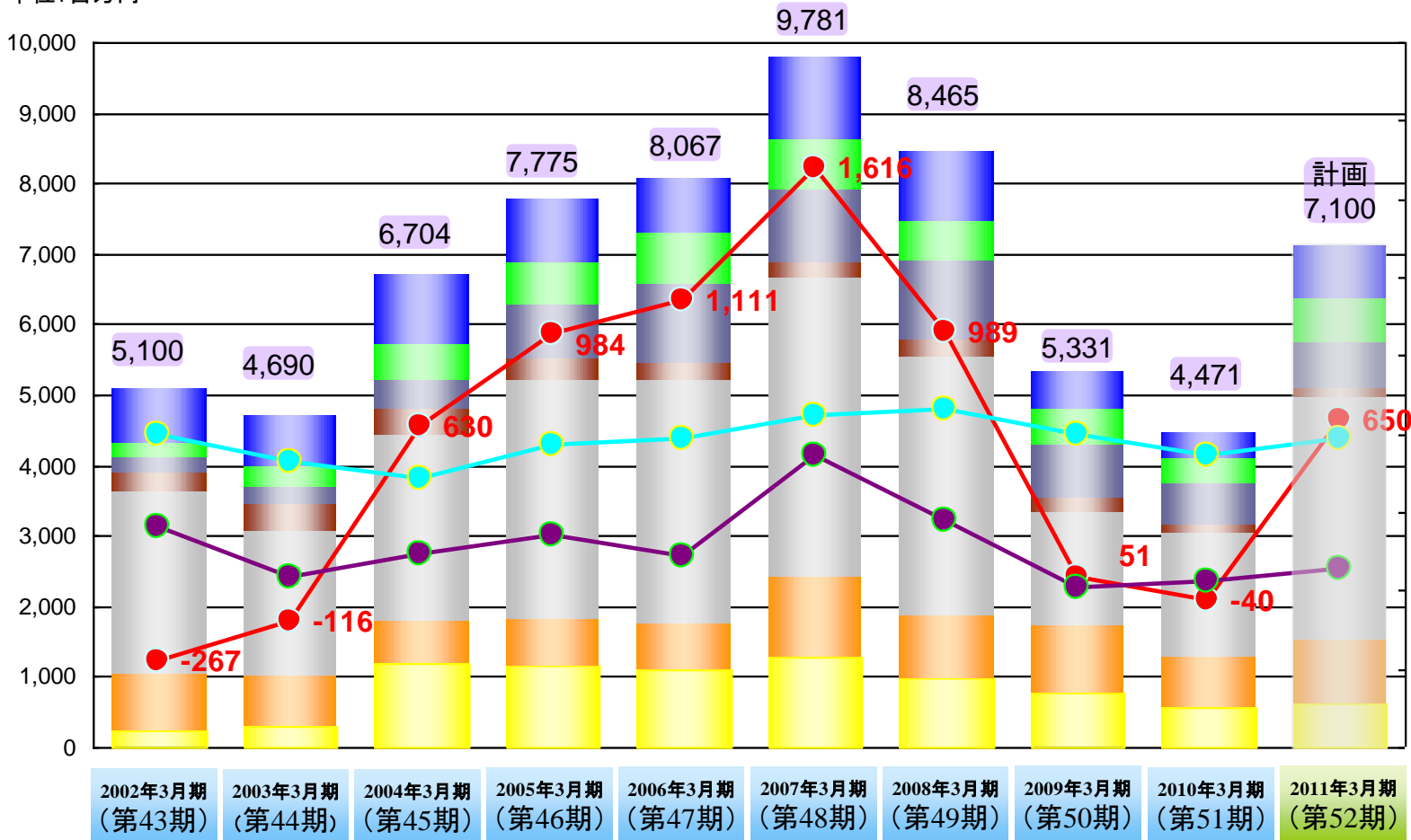


# 売上・利益・経営指標の推移—実績と計画

2002年3月期・第43期 — 2010年3月期・第51期(2011年3月期・第52期:計画)

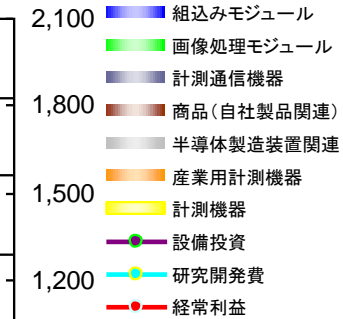
売上

単位:百万円

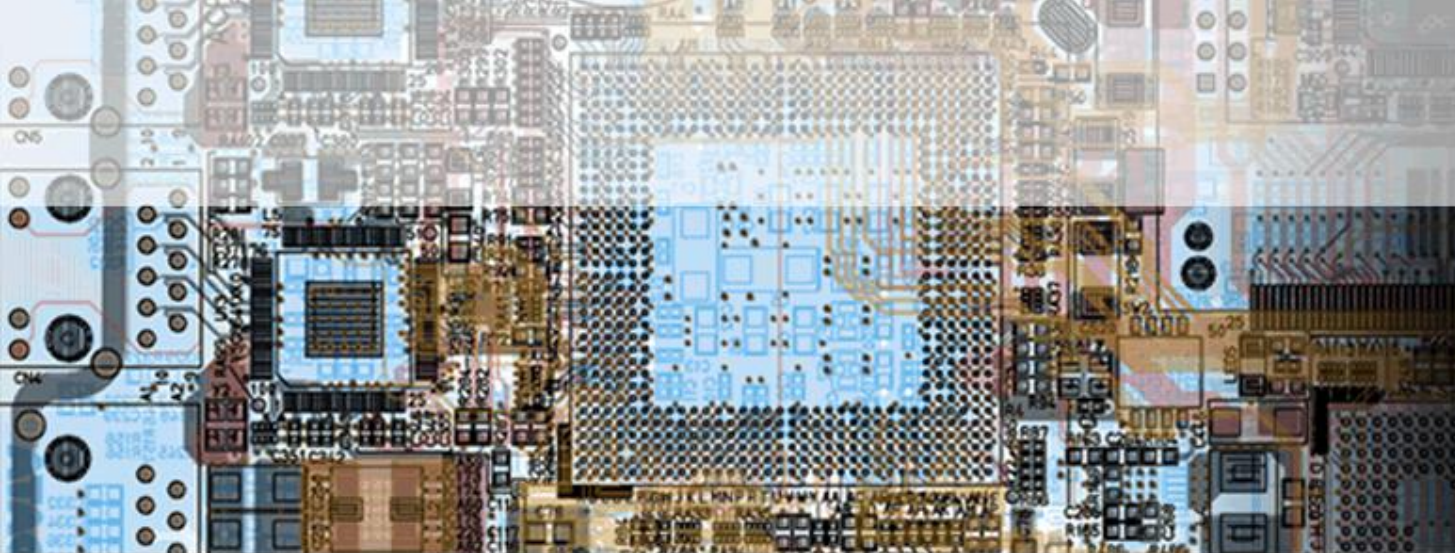


経常利益

単位:百万円







# 2010年中期経営計画概要

2011年3月期(第52期)－2013年3月期(第54期)

# AaA

actionandachievement

実行と実現

2010年5月20日



# AaA

actionandachievement

実行と実現



## 景気回復時の業界変革での飛躍！

### 成長事業の確立

- ・差別化された強い製品
- ・新規分野の顧客開拓
- ・新製品の売上50%以上

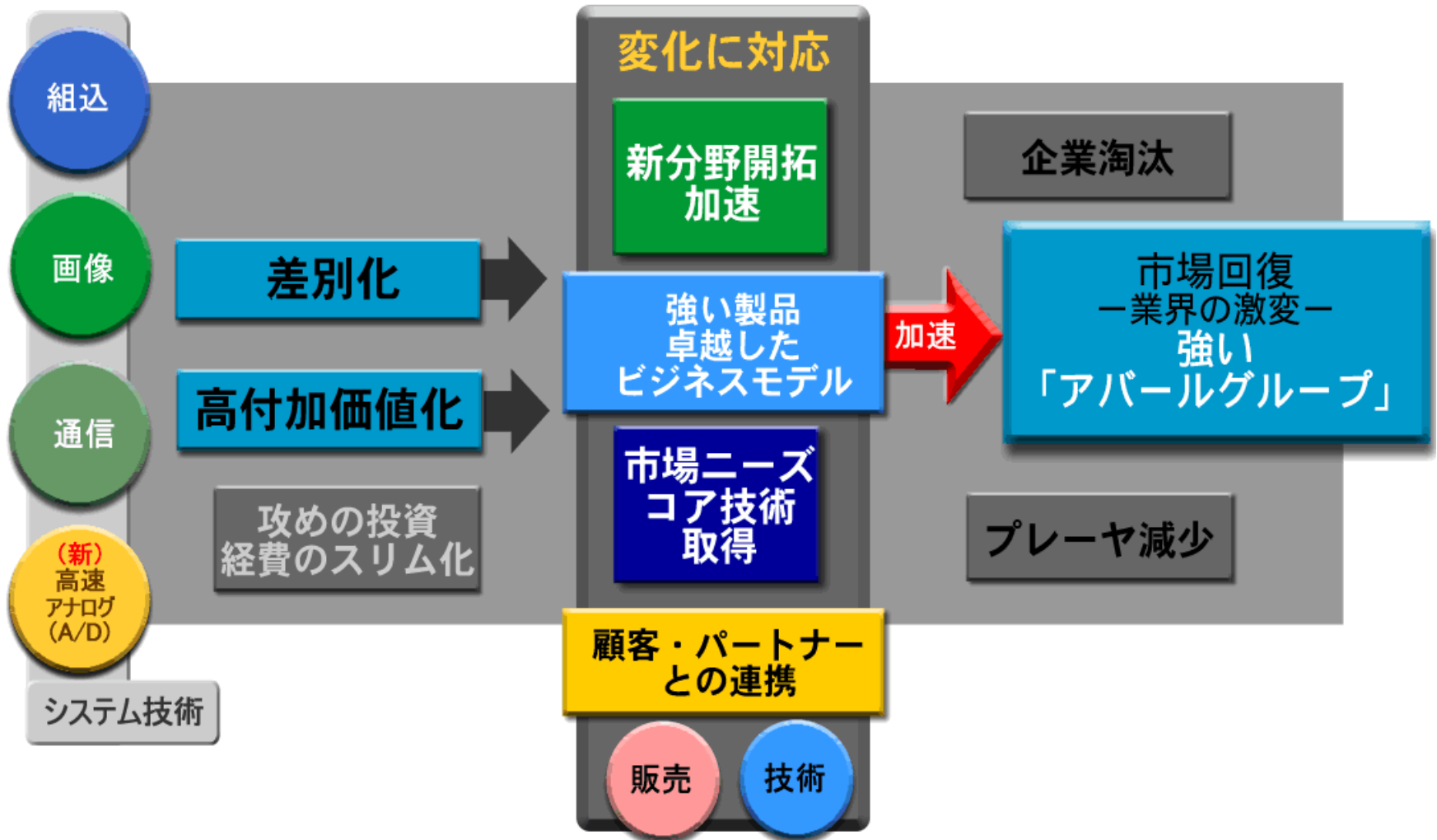
### 強い体質の強化

- ・変化を捉える組織の「進化」
- ・積極投資と固定費の最適化
- ・IR強化と社会的責任の遂行

### 生産性の最大化

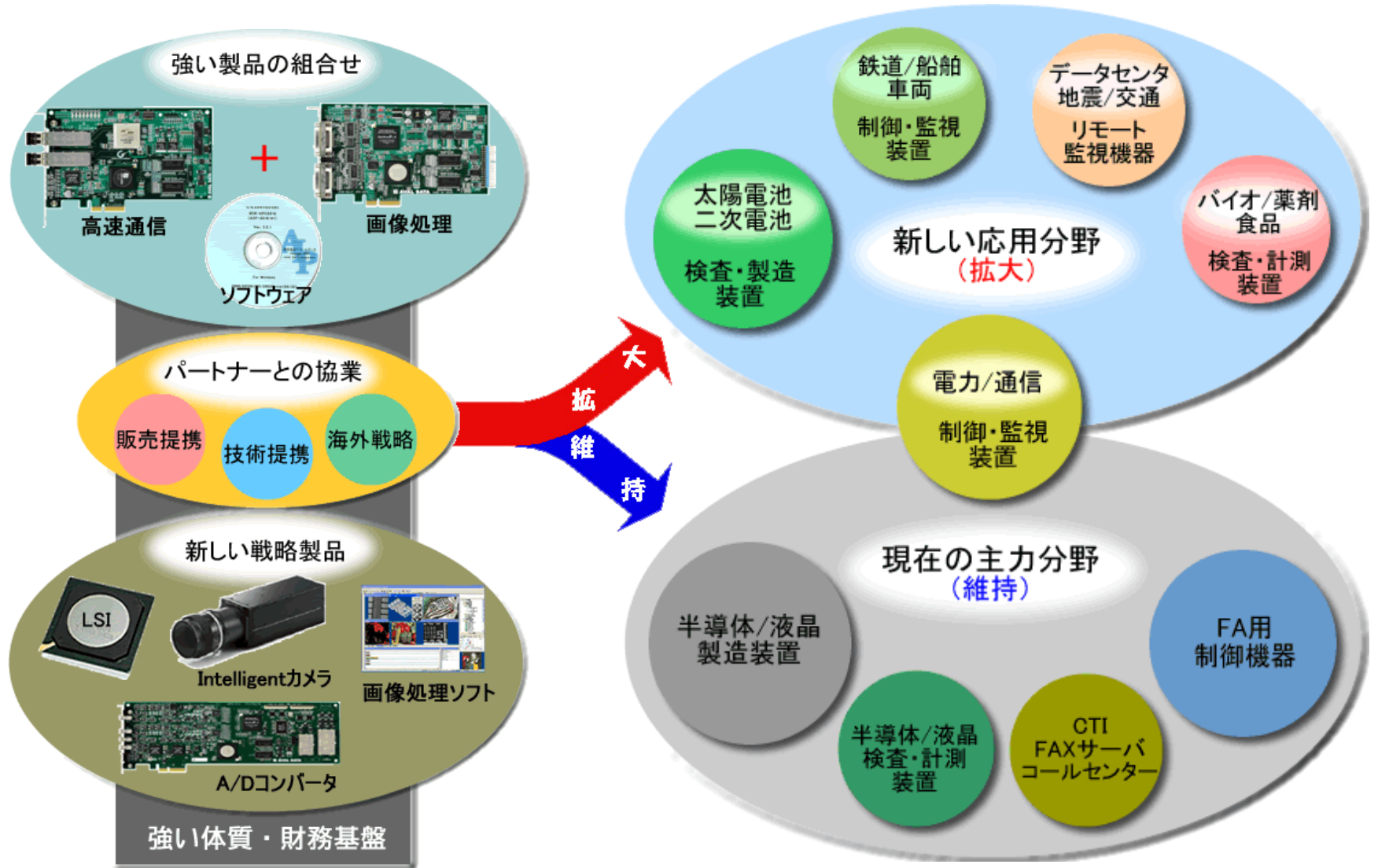
- ・ARP Expressで生産性向上
- ・徹底した品質とコスト追求
- ・業界トップの生産性実現

市場回復と予想される組込市場の変化への対応(激変する市場環境への対応と飛躍)





差別化された新製品により新規分野の市場を開拓





# 中期経営計画 成長のシナリオ 3(製品・市場開拓)

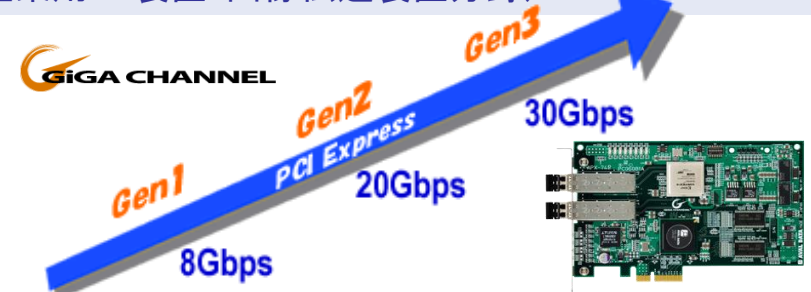
## 画像処理:コア技術を結集・応用分野拡大

- ソフト資産蓄積、コア技術IPI化、次世代カメラI/F
  - 強みを生かす新分野の顧客開拓
- (鉄道/交通・薬品/バイオ・太陽電池/2次電池分野)



## Gigaチャンネル:製品を進化・応用分野拡大

- 自社IPコアデバイス搭載、機能とコストで差別化
  - 超高速・大容量の通信ニーズの取込み
- (産業用FA装置・画像伝送装置分野)



## 高速アナログ:差別化・新しい分野開拓

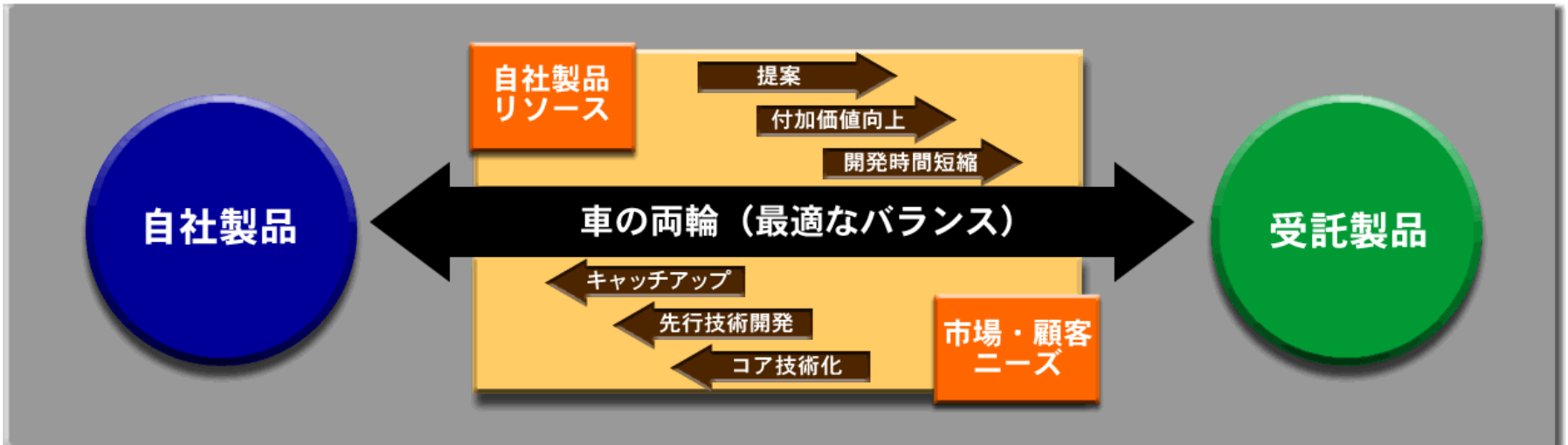
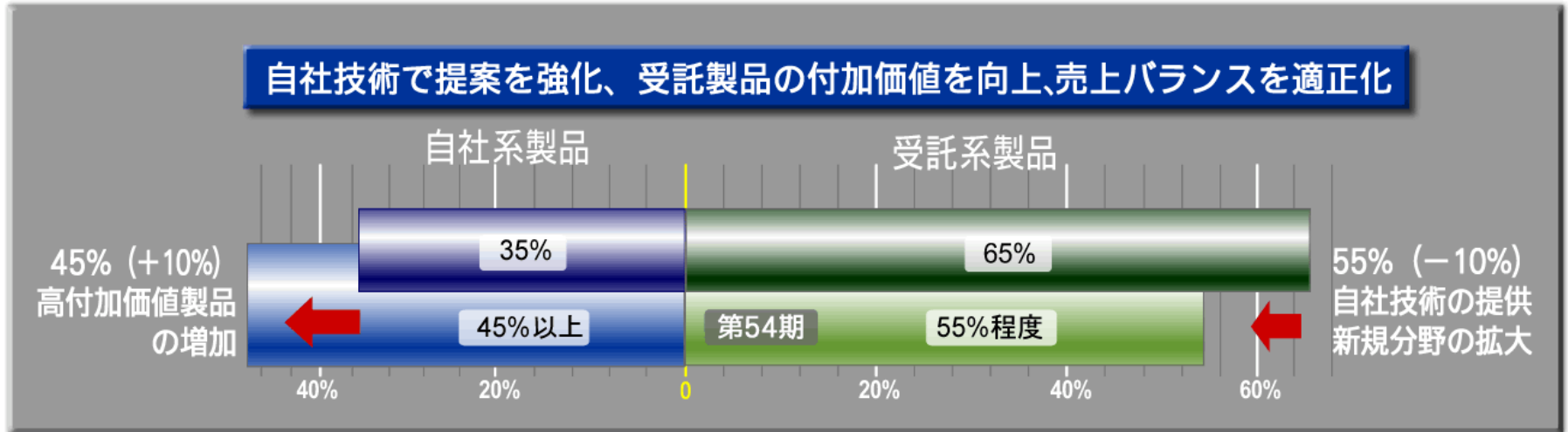
- 自社IPコアデバイス搭載、機能とコストで差別化
  - 超高速から普及製品まで広いニーズに対応
- (検査・計測・解析分野)

## リモート監視:広いニーズ対応・市場拡大

- リモート監視製品の強化・充実(差別化対応)
  - エネルギーシフトに対応した産業用機器の開発
- (災害監視・データセンタ・スマート電源分野)

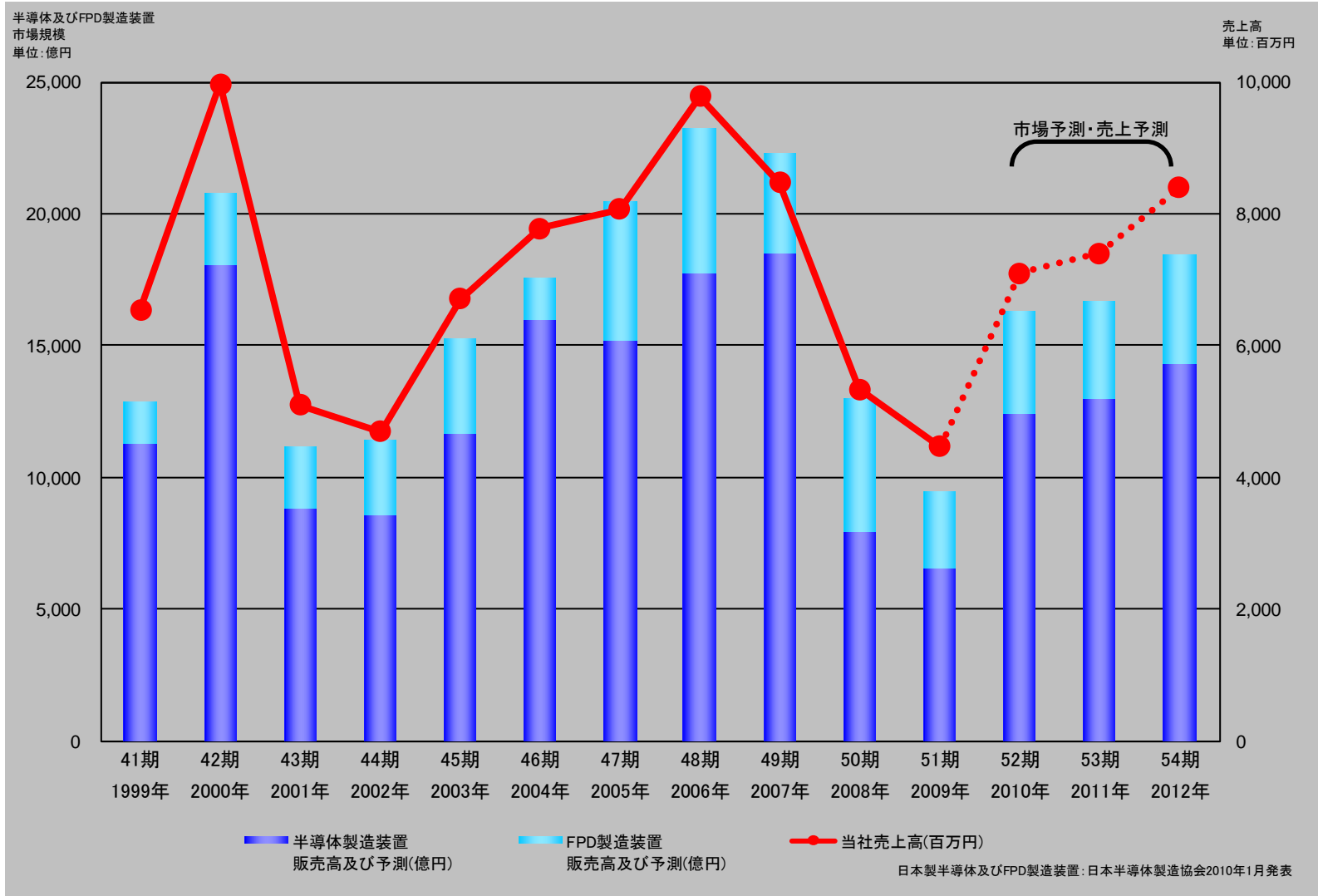


製品競争力・収益性を強化、「実行と実現力」で目標を達成！



# 長期・半導体/液晶製造装置市場と業績

2000年3月期・第41期—2013年3月期・第54期

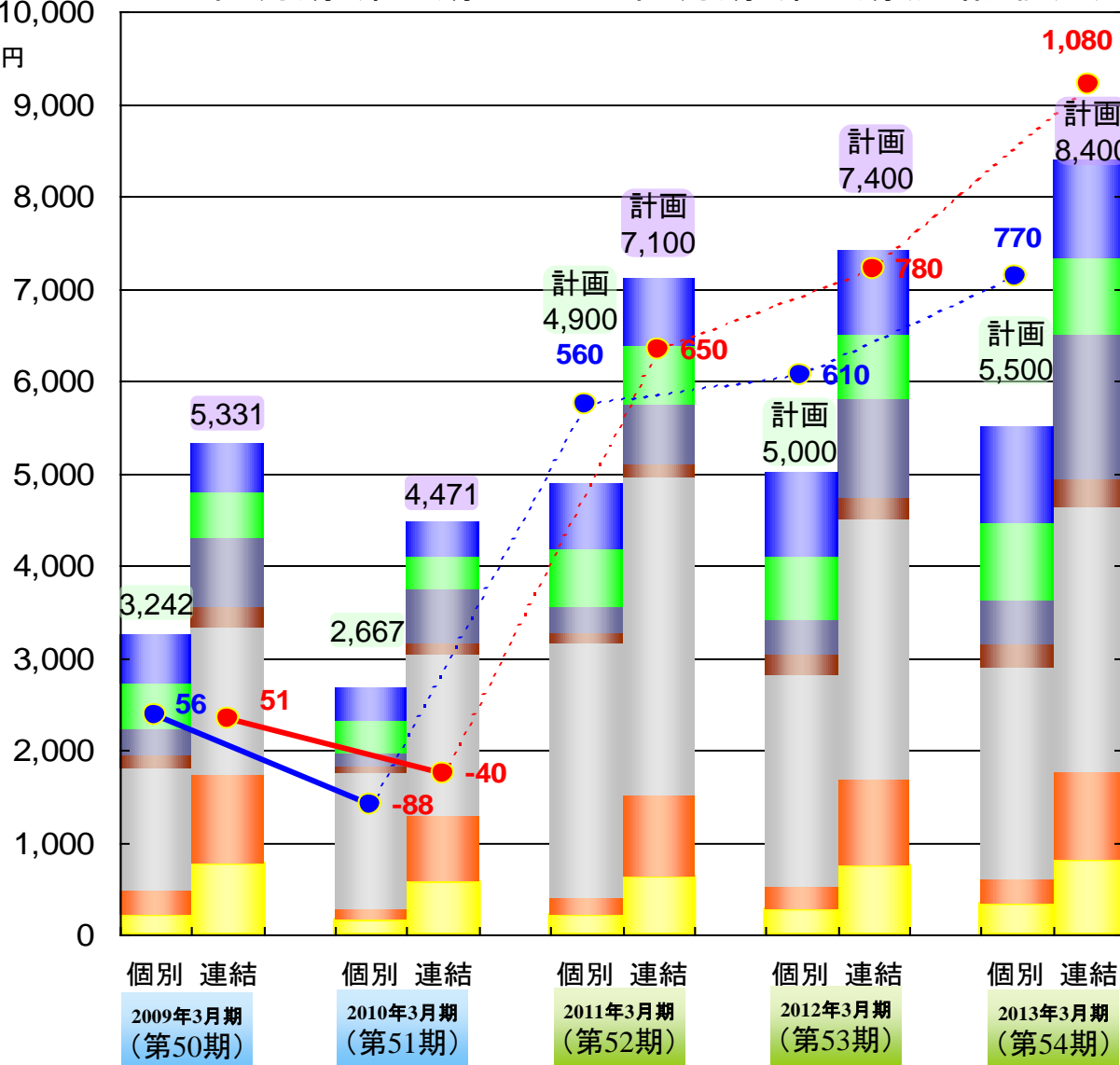


# 中期・品目別売上・利益計画

2011年3月期・第52期 — 2013年3月期・第54期(連結・個別)

売上  
10,000  
単位:百万円

1,200  
経常利益  
単位:百万円



- 組込みモジュール
- 画像処理モジュール
- 計測通信機器
- 商品(自社製品関連)
- 半導体製造装置関連
- 産業用計測機器
- 計測機器
- 経常利益: 連結
- 経常利益: 個別







本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信等は、本資料発表日現時点において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に関わる仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって予測数値とは異なる可能性があるため、本資料のみに全面的に依拠することは控えていただきますようお願い申し上げます。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われますようお願い申し上げます。